



廻火

吉原の万灯籠

伊 佐津川河口、高さ18尺にもなる万灯籠が煌々と光輝きながら立ち上がる。地元の男たちは「わっしょい！わっしょい！」と叫びながら万灯籠を支え、降りかかる火の粉をものともせず力強く回転させる。川岸には家族や地域の人々が押し寄せ、声援を送る。

江戸時代中期、クラゲの大量発生で漁に出られず苦しんだ漁民が、海神の怒りを鎮めるために始めたといわれるこの伝統行事。胸まで水につかった状態で大きな万灯籠を支えるだけでも難しいなか、力を合わせて回転させる。今年も例年をはるかに上回る15回以上も回転。最後には男が万灯籠によじ登り、クライマックスを迎える。今も漁業者の多い吉原で、豊漁への祈りが今年も益々の空へと届けられた。



小橋の精霊船行事

しょうらいぶね

祈りをささげ

小橋地区の海岸で8月15日に行われた「小橋の精霊船行事」。地元10〜14歳の子ども達が、竹やわらで作った長さ5〜7尺の精霊船に供え物を積み、村中の御精霊を乗せて浜から海に送り出す。この日、法要が行われた後、線香や供え物で飾り付けられた船は、住民に見守られながら沖へと送り出された。

